

# 瀬戸市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

瀬戸市では、戦略作物であるWCS用稲の栽培が定着しつつある。地域振興作物は、水田を有効活用して、露地野菜を中心に生産されている。しかし、農家の高齢化や後継者不足により、田畑の耕作放棄地化が年々進行している。

## 2 作物ごとの取組方針

### (1) 主食用米

農家の高齢化や後継者不足により、年々減少傾向にあるものの、農業塾の卒塾生や若手の農業者を活用し、現状維持に努める。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

産地交付金の産地戦略枠を活用し、栽培暦に準じた適正な施肥管理を行うなど生産性と品質の向上を図りつつ、畜産農家と連携し、計画生産を行う。

#### イ WCS用稲

産地交付金の産地戦略枠を活用し、栽培暦に準じた適正な施肥管理を行うなど生産性と品質の向上を図りつつ、畜産農家と連携し、計画生産を行う。

### (3) 大豆

大豆については、産地交付金の産地戦略枠を活用し、27年度に引き続き栽培に取り組み、市内の豆腐店と連携して豆腐への加工を行う。

### (5) 野菜

産地交付金の産地戦略枠を活用し、地域特産物として力を入れている「自然薯」「山ごぼう」を振興品目として面積を拡大するとともに、地産地消推進の観点から学校給食に納入可能で露地栽培としてリスクが少ない「玉ねぎ」「じゃがいも」などの品目にも取り組む。

### (6) 地域振興作物（景観形成作物）

向日葵、菜の花の景観作物の作付けを行い、不作付地の拡大防止・解消と農地の保全に取り組む。

### (7) 耕畜連携

産地交付金の産地戦略枠を活用し、耕種農家と畜産農家が連携することにより、互いの利益を追求し、両者の安定した経営の維持と発展に取り組む。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	109.0	110.0	110.0
加工用米	—	—	—
備蓄米			
米粉用米	0.2	—	—
飼料用米	0.3	0.35	0.35
WCS用稲	3.8	3.8	3.8
麦			
大豆	0.3	0.35	0.35
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	7.1	7.1	7.3
・野菜	6.3	6.3	6.5
・景観	0.8	0.8	0.8
耕畜連携	2.5	2.7	3.0

### 4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)	平成 30 年度 (目標値)
1	WCS用稲	生産性・品質向上の取組	ア	実施面積	3.8	3.8	3.8
2	大豆	高付加価値化の取組	ア	実施面積	0.3	0.3	0.3
3	飼料用米	生産性向上の取組	ア	実施面積	0.3	0.3	0.3
4	高収益作物 (野菜)	農業の所得向上の取組	ア	実施面積	6.3	6.3	6.5
5	耕畜連携	栽培指針に応じた堆肥の 施用	ア	実施面積	2.5	2.7	3.0

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、( ) 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり